

No.260

2022年
5月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

展示のご案内

展示期間 5月26日(木)まで

★メイン展示

「暮らしをデザインする」

さわやかな新緑の季節、皆さんは何をして過ごしてでしょうか。今回は暮らしに関する図書を集めてみました。普段作らない料理をするもよし、家具やDIYにこだわるもよし。新しいことに取り掛かるには絶好のこの季節。生活を楽しむための本を手にとってみてはいかがでしょうか。

- ・家事
- ・インテリア
- ・ティータイム

という3つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書(抜粋)

「暮らしのもやもやを、整える」「家事のワンオペ脱出術」「自分らしく暮らす部屋づくりのアイデア」「DIY+GREEN」「アジアンティーの世界」「おいしい「お茶」の教科書」「日日是好日」

★サブ展示

「Mother's Day」 「絵本で考える平和」

母の日は、日ごろ一生懸命家族のために動いてくれるお母さんに対して感謝を伝える日です。また、幸せな家族との生活から一転し、今世界で起きている出来事に目を向けるためのきっかけとなるようなコーナーを作りました。

どちらの展示も、子どもから大人まで多くの人に読んでいただきたいです。

●サブ展示図書(抜粋)

「おかあさんありがとう」「あなたのママはね」「へいわとせんそう」「ひとりひとりのやさしさ」

寄贈いただきました

「まんが MARIA・ルス号事件～近代人権の父 大江卓～」を卓囲会会長 大江貞男氏より、「ぼうさい植物ってなあに？」を日本防災植物協会事務局長 斉藤香織氏より寄贈いただきました。



「まんが～」は宿毛市出身の大江卓が、奴隷扱いされていた清国人を解放に導いた偉業を漫画で分かりやすく解説し、「ぼうさい植物～」は道端に生えている草の中にも食べられるものがあるということや、写真と一緒に調理方法も掲載され、いざという時に役立つ1冊です。

読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

図説 江戸のカルチャー 教養書・実用書の世界

深光富士男 著
河出書房新社

私たちに役立つ情報を教えてくれる教養書・実用書。出版文化が花開いた江戸時代、どんな本が出版され、読まれていたのか興味はありませんか？

当時刊行されていた指南書・ガイドブック・事典・救荒書・図案集など様々な分野の本をビジュアルたっぷりに紹介。いま見ても楽しい商店ガイドやクスリと笑える図案もあり、江戸文化がより身近に感じられる一冊です。

(児童)

エネルギーって何だろう？

小池康郎 監修
PHP研究所

普段使っているエネルギーはどういったものがあるのでしょうか。夜、明かりがつくのが当たり前になった世の中だからこそ、無限ではないエネルギーの大切さを考えてみませんか？

エネルギーとは何かを太陽エネルギーを通じて考えることのできる一冊となっています。

(一般)

アルツ村

南杏子 著
講談社

深夜、明日香は夫のDVから逃れるため、幼い娘リサを連れて決死の覚悟で家を出る。

命からがら迷い込んだ村で、別人になりすまし生活を始めるがそこは高齢者たちばかりが暮らす村。なにかおかしい気がするものの平和な村で生活を送る中、少しずつ異変に気づき始める。

(児童)

ゆきちゃんは、ぼくのともだち！

武田美穂 作・絵
童心社

病気をしてから、しだいに子どもの頃にかえてしまうようになったおばあちゃん。孫のけんたくんのことわからなくなって、できないことが多くなっていきます。

ある日、7歳のゆきちゃんになったおばあちゃんとけんたくんは…

おばあちゃんと孫の交流を描いた心あたたまる感動作です。

※本の紹介文は、スタッフが作成しています。

牧野富太郎の人生

山下量子

思い起こせば小学校低学年の頃、シダなどの植物採取をして、画用紙に貼り付けた標本を夏休みの自由課題にしたことがあった。

植物の持つ規則性が美しいと思い、後に私が惹かれたそれは、自然界におけるフラクタル図形だと知った。

植物に惹かれ、小さい頃から標本採集した人物といえば、牧野富太郎を思い出す。彼もまた、植物の持つ美しさ、その神秘さに、魅了されたのではなかったか？

日本の植物学の父と言われ、自らも、「草木の精」であるかもしれないと語っていた牧野富太郎。

その圧倒的な植物への愛、知識、研究は世界に知られている。富太郎が日本全国を歩き、まだ知られていない植物を発見し、名前をつけた数は約1500種類にもものぼるといふ。

2023年前期の連続テレビ小説『らんまん』でその人生が描かれるというニュースは、高知県人にとってとても喜ばしいことだった。

牧野富太郎の人生を見てみると、日本に生息する植物の約二分の一が自生するという高知の風土無くしては語れない。

その自然豊かな土地が、富太郎の感性を育き、才能を開花させたのだろう。そして、彼の自然に対する敬意、冷めて止まない植物への情熱。

それは90歳になっても、五万冊余りの研究用の蔵書（時には蔵書の重みで、家のふすまが曲がるほどであったという）に囲まれながら毎晩夜中の2時3時まで研究していたことや、「草木を本尊とする宗教を樹立したい」と言っていた事からもわかる。

その熱心さゆえに、研究に必要なものには投資をおしまなかった牧野家は、いつも貧しく、けれども心は豊かだったという。

豊かさとは自分の好きなことを好きなだけやることなのだろうと感じた。

借金取りが来た時には、赤い旗で富太郎に知らせたという妻の存在も大きい。

そんな富太郎は、何度か深刻な財政難に陥ったことがある。そのたびに富太郎には支援者が現れる。

一度目は、35歳のころ、借金に苦しんでいた所を三菱財閥岩崎家に助けられる。

54歳の頃は、これまで集めた膨大な量の標本を海外に売り渡さなくてはいけないほどの借金に追い込まれたが、この時も、神戸の資産家の池長孟（はじめ）が援助した。その後は、妻が商才を発揮し、富太郎を支えた。

世界に名だたる富太郎の背景には、彼の信念と才能を見抜き、支えた人物がいたのである。

そんな富太郎は植物画の才能にも恵まれていた。

微細で正確な富太郎のスケッチは、今のデジタル技術で3D化しても、現物と大差ないほどの正確さだという。

私は、富太郎のスケッチを見ていると、やはり彼は、植物に宇宙のような神秘さと深淵さを感じていたのではないかと思う。そう思うほど、植物画は微細なところまで細かく表現されていて、時には一ミリに5本の線を描くほどの精密さだという。神業だと言われるゆえんである。

富太郎のとことん、自分の興味を追求し、研究する姿。

植物画など、コツコツと丹念に地道に描き上げる姿。

新種を発見し続けるという絶えることの無い情熱。

富太郎の生き方は、子どもにも大人にも真似すべき姿であふれているなど、そう思う。

今年は牧野富太郎生誕160周年という。時間のある方は、是非、五台山の牧野植物園に足を運んで、富太郎の人生に思いをはせてみてはいかがだろうか。

そして、ちょうどこの4月。宿毛の偉人の一人、大江卓の没後100年記念事業として、まんが「マリア・ルス号事件～近代人権の父 大江卓～」が発刊された。私が僭越ながら脚本に携わらせてもらった。

坂本図書館で借りられるので、そちらも是非、手に取って見てほしい。

大江卓の人生も生き様も、牧野富太郎に劣らないほど素晴らしいと私は思っている。是非、こちらも連続テレビ小説、はたまた、大河ドラマにならないかなどほのかな期待を寄せている。



高知県立牧野植物園で現在開催中の「牧野富太郎展～博士の横顔～」

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「図説江戸のカルチャー 教養書・実用書の世界 深光富士男
- 1 「おしゃべりな脳の研究」
チャールズ・ファニーハフ
- 2 「半藤一利語りつくした戦争と平和」 半藤一利
- 2 「枯れてこそ美しく」 戸田奈津子
- 3 「最新パワハラ防止法対策がよ～くわかる本」
池辺健太
- 3 「八甲田雪中行軍120年目の真実」 間山元喜
- 3 「まんがマリア・ルス号事件 ～近代人権の父
大江卓～」 布告文
- 4 「わたしに効くハーブ大全」 小早川愛
- 5 「Zoomやさしい教科書」 相川浩之
- 5 「はじめてのガラスペン」 武田健
- 6 「YouTube企業動画担当になったらこれだけは知り
たいマーケティング&プロデュースの基本」
押切孝雄
- 7 「ART GALLERY」 青柳正規
- 7 「旅する小舟」 ペーター・ヴァン・デン・エンデ
- 9 「小さな家のローラ」 ローラ・インガルス・ワイルダー
- 9 「同志少女よ、敵を撃て」 逢坂冬馬
- 9 「六人の嘘つきな大学生」 浅倉秋成
- 9 「小川未明新収童話集」 小川未明
- 9 「ブラックボックス」 砂川文次

※左側の数字は図書の分類を表しています。

0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 「ぼうさい植物ってなあに？」 澤良木庄一
- 「AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につく
シリーズ」 土屋誠司
- 「4つの時代をタイムトラベル」 大串潤児
- 「消えゆくくらしのモノ事典」 岩崎書店編集部
- 「万葉と令和をつなぐアキアカネ」 山口進
- 「不安でおちつかないとき」 オナー・ヘッド
- 「捨て犬・未来、しあわせの足あと」 今西乃子
- 「キダマッチ先生！」 今井恭子
- 「学校のおぼけずかん ハイ！」 斉藤洋
- 「病院図書館の青と空」 令丈ヒロ子
- 「森のプレゼント」 ローラ・インガルス・ワイルダー

絵本



- 「うみのりものえほん」 いしかわこうじ
- 「スサノオとオオナムチ」 飯野和好
- 「キツネ」 イザベル・トーマス
- 「わたしはいいこ？」 えがしらみちこ
- 「あめさん、おみずさん、ありがと～！」 黒沼ユリ子
- 「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」 蒔田純
- 「神社のえほん」 羽尻利門
- 「えんどうまめばあさんとそらまめじいさんのいそが
しい毎日」 松岡享子

★このほかにもたくさんの図書が入っております。

図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、
そちらもぜひご覧ください。

5月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日・祝 10:00～18:00

ホームページ <https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>

メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp

は休館日



【図書館HP】

